

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 5 月 31 日 (2007.5.31)

【公開番号】特開 2001-302934 (P2001-302934A)

【公開日】平成 13 年 10 月 31 日 (2001.10.31)

【出願番号】特願 2000-126266 (P2000-126266)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/02 (2006.01)

C 0 8 G 77/14 (2006.01)

C 0 8 G 77/50 (2006.01)

C 0 8 K 3/34 (2006.01)

C 0 8 K 5/07 (2006.01)

C 0 8 L 83/02 (2006.01)

C 0 8 L 83/04 (2006.01)

C 0 8 L 83/06 (2006.01)

C 0 9 D 183/02 (2006.01)

C 0 9 D 183/04 (2006.01)

C 0 9 D 183/06 (2006.01)

C 0 9 D 201/02 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 101/02

C 0 8 G 77/14

C 0 8 G 77/50

C 0 8 K 3/34

C 0 8 K 5/07

C 0 8 L 83/02

C 0 8 L 83/04

C 0 8 L 83/06

C 0 9 D 183/02

C 0 9 D 183/04

C 0 9 D 183/06

C 0 9 D 201/02

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 4 月 10 日 (2007.4.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

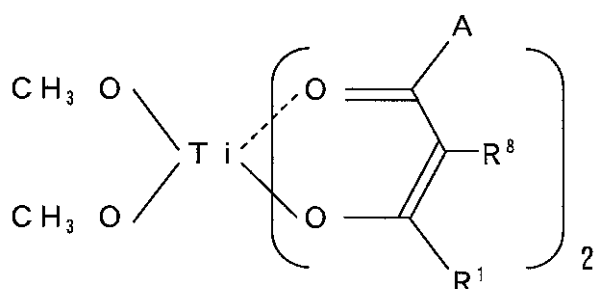
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (A) 1 分子中に平均で 1 個を超える加水分解性基を有する高分子、
100 質量部、
(B) 一般式： $R^2_b Si(OCH_3)_{4-b}$ (式中、 R^2 は炭素数 1 ~ 8 の炭化水素基、b は 0
または 1) で示されるメトキシシランまたはその部分加水分解縮合物、0.1 ~ 25 質量
部、
(C) 下記一般式で表されるキレート型メチルチタネート、0.1 ~ 10 質量部

【化 1】



[ここで、 R^1 は炭素数1～8の炭化水素基(第3級アルキル基は除く)または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている)であり、Aは $-R^3$ または $-OR^3$ から選ばれ{ここで、 $-R^3$ は炭素数1～8の炭化水素基(第3級アルキル基は除く)または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている)}から選ばれ、 R^8 は水素原子、炭素数1～8の炭化水素基、または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている)から選ばれる。]

を含有する室温硬化性に優れた硬化性組成物。

【請求項2】 前記高分子(A)の加水分解性基が次の一般式(1)または(2)で表わされるものである、請求項1記載の室温硬化性に優れた硬化性組成物。

【化2】

一般式(1)： $-\text{Si} R^4_a (\text{OR}^5)_{3-a}$ (aは0、1または2)

一般式(2)： $\begin{array}{c} | \\ \text{Si} R^4_a (\text{OR}^5)_{2-a} \\ | \end{array}$ (aは0または1)

(式中、 R^4 は炭素数1～8の炭化水素基または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基、 R^5 は炭素数1～6のアルキル基または炭素数2～8のアルコキシ基置換アルキル基)

【請求項3】 前記高分子(A)が、1分子中に平均で1個を超える加水分解性基を有する、ポリオルガノシロキサンまたは炭化水素重合体から選ばれたものである、請求項1または2に記載の室温硬化性に優れた硬化性組成物。

【請求項4】 そのポリオルガノシロキサンの、そのケイ素原子に、アルキレン基を介して結合する加水分解性基を有する、請求項2記載の室温硬化性に優れた硬化性組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

[ここで、 R^1 は炭素数1～8の炭化水素基(第3級アルキル基は除く)または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている)であり、Aは $-R^3$ または $-OR^3$ から選ばれ{ここで、 $-R^3$ は炭素数1～8の炭化水素基(第3級アルキル基は除く)または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基

の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている) } から選ばれ、 R^8 は水素原子、炭素数1～8の炭化水素基、または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている)から選ばれる。]

を含む室温硬化性に優れた硬化性組成物である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0068

【補正方法】変更

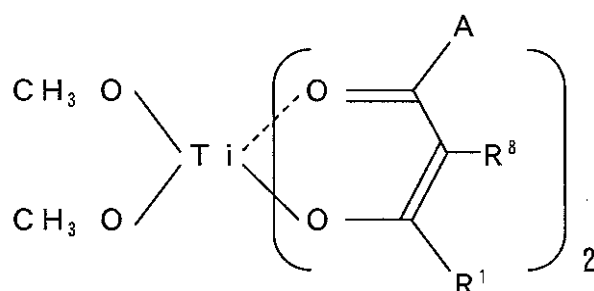
【補正の内容】

【0068】

[(C)キレート型メチルチタネート]

本願発明に使用される成分(C)は、下記一般式で表されるキレート型メチルチタネートである。

【化3】



[R^1 は炭素数1～8の炭化水素基(第3級アルキル基は除く)または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている)であり、Aは $-R^3$ または $-OR^3$ から選ばれ{ここで、 $-R^3$ は炭素数1～8の炭化水素基(第3級アルキル基は除く)または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている)}から選ばれ、 R^8 は水素原子、炭素数1～8の炭化水素基、または炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている)から選ばれる。]

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

[R^1 の例示]

炭素数1～8の炭化水素基(第3級アルキル基は除く): メチル基、エチル基、プロピル基、 n -ブチル基等

炭素数1～8のハロゲン化炭化水素基(炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている): 3,3,3-トリフルオロプロピル基等

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

[Aの例示]

(Aが - R³ の場合)

炭素数 1 ~ 8 の炭化水素基 (第 3 級アルキル基は除く) : メチル基、エチル基、プロピル基、n - ブチル基等

炭素数 1 ~ 8 のハロゲン化炭化水素基 (炭化水素基の有する水素原子の一部がハロゲン原子で置換されている) : 3,3,3 - トリフルオロプロピル基等